

(34) 受福利不可

(85) × (27) × 0.2 081

(35) [如是カ]  
□□□

(32) × (21) × 0.2 081

柿経は一般的に一行一七文字で、二〇枚または四〇枚で一組となる。今回報告の柿経は片面のみ書写され、大きさは幅広薄手である。こうした特徴は、室町時代後半以降のものにみられる。いずれも破片で完形のものはなく、(6)(35)がかろうじて上端の原形をとどめて圭頭状を呈する。

内容はいずれも『地藏菩薩本願経』であり、(1)～(5)は「忉利天宮神通品第二」、(6)(7)は「閻浮衆生業感品第四」、(8)～(33)は「地獄名号品第五」、(34)は「校量布施功德縁品第十」の一部である。

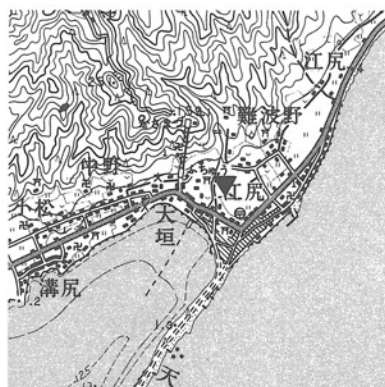
# 9 関係文献

奈良県立橿原考古学研究所『三郷町 平隆寺 (付)奈良市高畑町八王子神社出土懸仏』(奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第四七、一九八四年)

(鶴見泰寿)

## 京都・難波野の遺跡

- 1 所在地 京都府宮津市難波野・大垣
- 2 調査期間 第五次調査 二〇〇六年(平18) 九月～二〇〇七年二月
- 3 発掘機関 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 4 調査担当者 石井清司・引原茂治・石尾政信・戸原和人
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 難波野遺跡は、日本三景の一つである天橋立の北側に位置する。



(宮津)

成相山系の山地から流下する真名井川などの小河川によって形成された扇状地上及び阿蘇海に面した低地に立地する。付近は「府中」と呼ばれており、丹後国府の所在地と考えられている。調査地は、この扇状地の縁辺部及び低地部にあたる。

調査の結果、弥生時代中期の方形貼石墓、多数の土器で構成された古墳時代中期の祭祀遺構、中世の建物や井戸などを検出した。遺物では、平安時代頃の「南」「古」もしくは「十口」などと記された墨書土器や中世の漆絵漆器、多数の中国製陶磁器などが注目される。木簡は、一二―一三世紀頃の柵列から一点出土した。柵列は、南北方向に四基の柱穴が並び、木簡は北から一基目の柱穴埋土から出土した。柱穴には柱根が残るものもあった。

# 8 釈文・内容

## (1) ・「寛治五年

・米□□

(83)×21×6 061

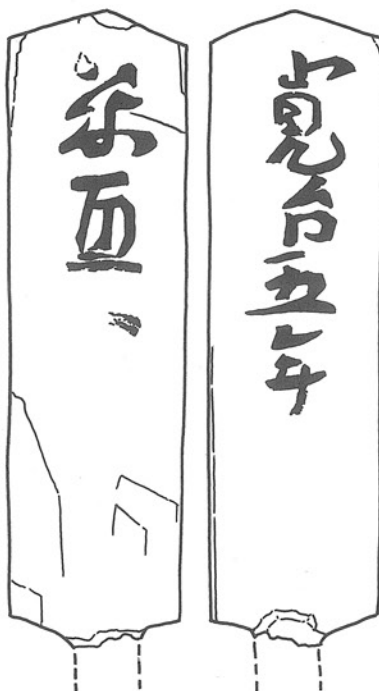
軸部を欠失した題籤軸とみられる。上部は山形に削り出し、下部は左右から切り込んだ痕跡がある。中央には折損痕が見られる。

表面には「寛治五年」(一〇九二)と墨書され、裏面三文字目は数字の可能性もある。

## 9 関係文献

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査報告集』  
一二八(二〇〇八年)

(引原茂治)



赤外